

お産&子育てサポート

発行・編集
お産&子育てを支える会
代表 斉藤智孝
編集者 東直美
TEL/FAX 090-7103-2240

お産の変化 昔々は… ～時代の流れと共に～

「お産」は人類がこの地球上に現れたときから女性が延々と繰り返し、命をつないできた行為であり、生理的なものです。お産という行為そのものは時代が移り変わっても、何ら変わることはありません。子宮の中で命が280日かけて育ち、時期が来れば陣痛が起こり、子宮から産道と呼ばれる膈を通り、赤ちゃんが生まれてくるのがお産です。しかし、時代と共に医学という学問が開かれ、全体の謎が解明され、お産も然り、色々な事が解りだしてきて、お産も変わってきました。日本は欧米に遅れてはいましたが、戦後、お産も医療の現場で行われる事が少しずつ増え、1960年には助産師による自宅や助産所のお産は半減、以後は医療機関でのお産が普通になり、近年では硬膜外麻酔分娩も 増えてきています。お産は本来どうあるべきなのでしょう？ 過去から学びたいと思います。



お産の時のポーズ(姿勢)は？

縄文時代の土偶に座産（座った状態で出産）の物が有るそうです。その後の平安、鎌倉時代の絵巻にも座産が描かれており、座産が主流だったようです。座産の時に柱にしがみついたり、天井からつるした綱（産み綱）につかまったりして、座るようにしゃがんで産んだり、腰を抱く介助者がいて中腰状態の産婦の後ろから腰を抱えて支えて産み落としたと言われていました。どうして座産が主流であったのか、それは一番産みやすいポーズだったと思いますが、急速にお産が進む可能性が大きく、産道への損傷が大きかったり、赤ちゃんが産み落とされる危険もあったのでは？と思います。

江戸時代にはその危険性を指摘する医師もいたのですが、座産が無くならず、主流だったそうです。そして、ヨーロッパでは古代ギリシャやローマの時代から「お産椅子」が存在し、現代のトイレの便座のような座面に腰掛けて産むようになっていたそうです。日本の座産と同じ様な姿勢であることから、やはり最も産みやすかった姿勢なのかもしれません。現在のような仰臥位（仰向けに寝た姿勢）での出産になってきたのは明治以降ですが、地方では昭和初期まで座産は残っていたそうです。



お産の後はどう過ごした？

江戸時代は産後 7 日間は正座したまま眠らずに過ごしたそうです。そのように過ごすための椅子（産椅、産籠等）で立派な漆塗りのものから、藁を束ねて作られた簡素な物まで種々有ったようです。横になると頭に血がのぼる、起きていれば会陰裂傷の治癒が早いや、鬼に赤子をさらわれないようにとか、明確な理由は解りませんが、産後の女性に眠らず座ったまま 7 日間は苦行だったと思います。産後 7 日間の苦行で身体が萎えて動けなくなったり、今でいうショック状態にな



びっくり!

昔のお産

るなど弊害は大きく、産後の椅子を壊す様に言う医者もいたのですが、昭和初期まで緩やかですが続けられていた所もあるそうです。

「産屋(うぶや)」とは？

昔からお産の場所は家の納戸や土間の片隅といった人目の付かない、生活から切り離された所でした。産屋と言われるお産をして、その後 7 日目（地域によっては最長 40 日）まで過ごす共同施設が全国にあった時代もあり、現在も文化財として福井県や京都に保存されています。神棚やしめ縄が存在し、医療がない時代には神頼み的なこともあり祭られていたり、かまどや囲炉裏もあり炊事ができ暖も取れ生活空間のようになっていたようです。地域の女性達がお産をサポートし、産後は 7 日間寝かさないように夜伽話を語り、助け合ったようです。産屋は女性達にとって家のしがらみから解放され、ほっとできる場所でもあったのかもしれない。お産は地域で助け合った共同事業だったとも言えます。



産婆とは？

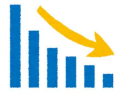
「産婆」が職業になったのは江戸時代からだそうです。それまでは身近な女性がお産の介助に当たっていたようです。しかし、その時代は資格があるわけではなく、素人が経験のみで産婆になれたのです。資格として認められたのは明治になってからのことで、明治 7 年の産婆規定は「産婆は 40 歳以上で、夫人小児の解剖生理および病理の大意に通じ産科医の眼前において平産 10 人、難産 2 人の実際の取り扱いをして得た実証書を所持するものに免状を与える」となっています。その後も何度も規則改正が行われ、それに伴い産婆養成所が全国に設立され、教育を受けた新産婆がお産を大きく変えていったのです。座産から仰臥位産に変え、異常の場合医師の処置をあおいだり、衛生観念が教育されたことで消毒の徹底、産褥熱の予防がはかられ、





産後の十分な休養と栄養の指導が行われるなど、革命的な変化をもたらしました。昭和22年には産婆から助産婦に、平成14年には現在の助産師にと名称が変わったのです。

しかし時代の変化で、昔は100%自宅出産でしたが、昭和35年には50%に減り、5年後の昭和40年以降は医師が立ち会う医療機関での出産がほとんどになりました。医療管理の下、新生児死亡率や妊産婦死亡率は減るといって有り難い時代になったのですが、一方では産後うつで自死が増え、少子化が進み、昨年度の出生率は1.22の過去最低になっています。どうなるのか？国は色々子ども施策を繰り広げていますが、結果として改善が見られない状況です。



90代おばあちゃん達にお産体験談聞く



そんな中、お産子の家では、産む人に参考になればと、お産塾で90代のおばあさん3人にご自分の妊娠出産育児体験を語っていただきました。

90代の方が妊娠出産子育てををされた時代背景は丁度戦後の生活が厳しい頃です。田舎の嫁は「働き手」として扱われ、妊娠しても田畑に出て働くのが普通で、休むことなどできなかったそうです。産む直前まで身体を動かしたお陰もあったのか、お産は軽く3人とも「うんちをするように産んだ」と言われました。そして、産後は1週間もすれば家事を行い、1ヶ月も経てば田畑に出て働いたそうです。今日の30代の妊娠年齢に比べるとそのおばあさん達は20代前半で出産されており、若さ故の安産とも言えるのかもしれませんが、お産に向けてたとえ労働でも身体を動かしたことが安産に繋がったのだと思います。田畑の仕事だけでなく家事労働は今のようない電化されスイッチ1つで事が済む時代ではありません。生活の全てが人の労働で成り立つ時代、妊娠中も産後も常に動いていたそうです。産後の取れる休憩時間は唯一おっばいの時間で、赤ちゃんが早く泣かないか（泣いたら授乳で休憩できる）と思いが



ら仕事をしたと言われました。現在は赤ちゃんが泣くことに恐怖や不安を感じるお母さんが多く、子育ての悩みの上位には「赤ちゃんが泣き止まない」「何故泣くのかわからない」「泣いて寝ない」等の赤ちゃんの泣きが必ずあります。泣くことが待ち遠しいって今の時代では考えられないことです。



また、妊娠の判定は産婆に診てもらおうが、妊婦健診など無く、お産も隣のおばさんにお世話になったとのことでした。今回のおばあさん達は山の奥の集落で、産婆を呼びに行くには距離があり、間に合わない等の理由からその頃でも地域の女性達でお産を助け合っていたそうです。又、産後も妊娠中と同じく健診はなく、赤ちゃんに関しても同じで、歯が生えそろうてきた1歳頃には自分の食べ物を箸で子どもに与えていた、離乳食など作らなかった、それまでは母乳だけで大きくなり、充分健康だった、ちゃんと成長したと胸を張って言われていました。



妊婦健診を定期的を受け、産後も各種健診や保健指導があり現代は至れり尽くせり、恵まれていると思っていました。果たして本当にそうなのでしょう。か？健診で何を言われるだろうか、発達に問題あるって言われませんか？これができるけどどうしよう？と不安を抱くお母さんが結構います。健診が不要なわけではありませんが、健診が不安や心配を作っているように思えるのは私だけでしょうか？

時代と共に妊娠・出産・子育ても大きく変わってきたのが解りました。特にお産は大きく変わりました。より安全を求めて医療の力を借りてのお産が主流になっています。最近は硬膜外麻酔による無痛分娩も選択肢として一般的になってきています。しかし、産むのは妊婦本人というのは絶対代わることはできません。医師や助産師が代わりに産めるわけではありません。

今回の「陣痛が来るまで田畑で働き、うんちをするように産んだ」嘘のような体験談ですが事実なんです。時代が変わっても同じような安産体験はできると思います。産む女性が自分の力を信じて、お産に向けて動き(運動)、身体をいかに作ることが重要か理解できたと思います。安産めざし頑張ってください。

2日(火)10:30 ~ マミーハウス
7日(日)7:00 ~ 太郎坊に登る会
9日(火)9:00 ~ 鍼灸の日
10日(水)10:30 ~ ベビーママヨガ
11日(木)10:30 ~ ヌヌの会ランチおしゃべり会
13日(土)13:30 ~ しあわせお産相談会
8日(月)13:30 ~ ベビーマッサージ
16日(木)10:30 ~ 春ランチの会 part2
20日(土)13:30 ~ お産塾[お産について]
16日(火)10:30 ~ セルフ整体トレーニング 産後
13:00 ~ セルフ整体トレーニング 産前

23日(火)10:30 ~ すっぴんまんぷく会
24日(水)9:00 ~ 鍼灸の日
27日(土)13:30 ~ 八幡ママパレッシン
7月30日(火)10:00 ~
水口まる一むにて
「子どもとの関わり方について」
臨床心理士 井上知子先生

お産の写真展
7月3日(水)まで野洲図書館
7月9日(火)~23日(火)
近江八幡図書館
8月3日(土)~18日(日)
甲賀市水口図書館

【おっばい塾】10:00~
5日(金)お産子の家
11日(木)八幡ことしん
16日(火)八幡はちはび広場
22日(月)彦根こどもセンター
23日(火)水口まる一む
25日(木)安土コミセン